

特定非営利活動法人 京都府防犯設備士協会の紹介



特定非営利活動法人
京都府防犯設備士協会理事 伊佐 友宏

京都府防犯設備士協会は、平成14年10月9日に発足し、現在は、特定非営利活動法人（NPO）の認可を受けて活動しております。

会員企業は、主に京都市内に営業拠点を持つ大手防犯機器メーカーや施工業、錠前業、防犯ガラス業者等を中心に平成25年4月1日現在 賛助会員3社、事業所会員数45社、個人会員5名で計53会員となりました。当協会は、会員相互の緊密な連絡協調及び警察との連携のもと、セキュリティ産業の特性を生かした地域安全活動などを展開することによって、優良な防犯機器・防犯設備の普及促進を図り、府民が安心して暮らせる安全なまちづくりに貢献することを目的としております。

特定非営利活動法人 京都府防犯設備士協会の活動

《防犯モデルマンション登録制度》

皆様ご存知のとおり、京都は平安京遷都（794年）以来、大政奉還（1867年）まで千年もの間「都」がありました。そのため歴史上有名な建造物が多く、徳川慶喜が大政奉還を諮問した二条城や、最近では、現在NHKで放送されている「八重の桜」の新島八重の夫、新島襄の邸（京都御所東側）に多くの観光客で賑わっています。

その京都から、「防犯モデルマンション登録制度」の活動紹介いたします。

現在、「防犯優良マンション認定事業」は全国各地で実施されています。2008年に全国公益法人が策定した、「防犯優良マンション認定制度」以前に全国各地で実施されてきました。京都は（2004年）平成16年にスタートしています、京都での特徴は運営主体が京

都府防犯設備士協会で、事務局が受付、審査委員会、認定書、プレートの交付まで、すべてを実施しています。それだけに協会の負荷は大きいのですが、協会の維持のために欠かすことのできない収益事業となっています。

（1）防犯モデルマンションでの活動

現在、当協会「防犯モデルマンション制度」の維持のため、社団法人京都府建築士協会所属の先生方（一級建築士）9名、当協会総合防犯設備士、防犯設備士の資格を有し、防犯モデルマンション審査委員研修会に参加した16名で構成しています。（平成25年3月1日現在）防犯モデルマンション登録件数は、91件です。

（第1号登録防犯モデルマンション）

では、第1号の登録がどうであったのか、苦労話も含めご報告したいと思います

当制度での登録第1号は、「ルネ河原町」というマンションでした。（平成16年7月20日）昨今、申請登録をされる物件のほとんどが新築ですが、この物件は既設マンションであり、「審査基準を満たすことは難しい」というのが当協会の判断でした。しかしマンションオーナー様の防犯意識が高く、「費用がかかっても防犯モデルマンションとして登録したい」という熱意もあり、またオーナー様の期待に答えるために審査委員が一丸となり、当マンションの担当審査委員だった木村氏（当協会前理事）には特にご尽力頂き、その成果として無事第1号として認定登録されました。

2009年（平成21年3月）に登録50号（ファインフラッツ山科音羽川）では記念プレートを発行致しました。



第1号防犯モデルマンション「ルネ河原町」
平成16年7月20日登録

るマンションが当制度に抵触していないか判断する審査委員会で意見や情報交換を行っています。(ぜひ、京都府防犯設備士協会のホームページをご覧ください)



審査委員会の様子

その後、当制度の認知度を高めるために当協会会員34名、ビル管理会社や建築会社の方37名参加による「防犯モデルマンション説明研修会(勉強会)」を開催しました。こつこつとした活動により、申請件数も増えてまいりましたが、当然申請が増加すれば審査



第50号防犯モデルマンション
「ファインフラッツ山科音羽川」
推薦状及び登録プレート
(平成21年3月12日)登録

委員が不足することは考えられましたので「防犯モデルマンション審査委員研修会」を不定期で開催し審査委員の増員をはかりました。

(3) 今後の課

防犯と防災は二律背反的要素があり、このトレードオフ的関係の解消であります。また、次々と採用される新しい建築資材や商品、昨今の犯罪情勢対して我々も知識を入れ勉強し場合によっては審査基準の改定をする必要があります。

最後に特に重要であることは、各審査委員の審査基準に対する共通の認識を持ち維持することであり

我々が、審査し登録となったマンションが、犯罪を行おうとする者に対して、抑止効果があることを願っております。

(2) 防犯モデルマンション制度の運営、維持について

「京都府防犯モデルマンション審査基準」は、「京都にしかない」審査項目があります。その理由として、京都では「鰻の寝床」といわれる密集した古い町家の隣にマンションを建設することが大変多いため、そこからの侵入対策について客観的基準を設けています。そこで問題になるのが、防犯と防御です。防御を優先すると鉄格子だらけのマンションになります。

また、当制度の維持のため携わる審査委員に対し定期的に審査委員研修会の開催及び申請を受理してい